



西尾いきものふれあいの里だより

5月号

2024.5.1 発行

さとやま

5月の里といきもの



今年の4月は、直前の低温のためソメイヨシノの開花が遅くなり、満開が入学式に間に合いましたが、その後の高温や激しい雨のため、お花見の期間が短かったような気がします。また、花の咲く種類の順番が違ってきたものもありました。しかし5月には、菖蒲園ではハナショウブに先立ち、**カキツバタ**の花が咲くものと思われます。アヤメ科に分類されるカキツバタは、花弁の付け根が白いことで、ハナショウブやアヤメと区別できます。

センター前では、白い**アメリカヒトツバタゴ**の花が、東側の木から順に咲いていきます。

ヒトツバタゴといえば、天然記念物の木を思い浮かべますが、これは生長が旺盛な樹木で、大型のものになると、15m以上の高さになることもあります。アメリカ東部に分布するアメリカヒトツバタゴは、小型で樹高3～10m程度で、若木のうちから花を咲かせるため、庭木に適していて、街路樹としても植えられています。ヒトツバタゴに比べると花弁が細いようです。



ヒトツバタゴの名の由来は、この木が同じモクセイ科のタゴノキ（トネリコ）によく似ているのですが、タゴノキは、小葉が葉軸の左右に鳥の羽のように並ぶ、サンショウの葉のような「羽状複葉」なのに対してこちらは1枚の「単葉」、そのため1つ葉のタゴノキというところから「ヒトツバタゴ（一つ葉タゴ）」と呼ばれたと言われています。

まるで雪が積もったような姿をお楽しみください。

万灯山に向かう道を歩いていると、こんなものが落ちています。



長さ5cm以上の大きな淡い紫色の花が落ちていたら、見上げてみて下さい。この花がたくさんついている大きな花穂を見つけることができます。これは、**キリ**の花です。キリ科に分類される中国を原産地とする落葉広葉樹で、日本国内でとれる木材としては最も軽く、割れや狂いが少ないという特徴があるため、加工がしやすい上に、材が湿気や熱気を防ぐ性質で虫害を受けることが少なく、燃えにくいという性質があります。そのため古くから、箆箆や箱や和机、琴や琵琶などの弦楽器等、様々なものに使われます。

名の由来は、苗木を植えてから肥料を十分に与えて幹を太らせ、一度根元で切って、切り株から再び勢いのある芽を出させる、「台切り」という技術で育てるためといわれています。

種子は翼がついていて、風で撒布され、発芽率が高く生長が早いので、野生化しやすいようです。アメリカ合衆国では観賞用に輸入したものが野生化し、駆除の対象になっています。



また、葉がきれいに巻かれているものが落ちてることがあります。これを湿度管理して保存すると、写真のような昆虫が出てきました。よく動くので冷蔵庫で冷やして動きを止め、撮影してから放しました。これは**オトシブミ**というオトシブミ科に分類される甲虫です。雌は、クリ、ナラ、クヌギ、ハンノキなどの葉にかみ傷をつけて巻き込み、その中に1個の卵を生み付けます。孵化した幼虫はこのゆりかごを食べて成長します。

名前の由来は昔、巻物になっている手紙を家の前に落としていくという風習があり、メスを作るゆりかごが、この文に似ているという事からと言われています。

オトシブミの仲間には葉にゆりかごをつけたままにするものもあり、この時期花をつける**エゴノキ**では、**エゴノツルクビオトシブミ**のゆりかごを見つけることができます。



5月はこんな生きものも見られます

センター前や里山エリアでは、ムラサキサギゴケに代わって、徐々に**ニワゼキショウ**やその仲間の花に代わっていきます。これはアヤメ科に分類される外来種で、芝生などでよく見られます。小草池付近の道沿いでは、咲き始めは白く、後で黄色く変わることから、別名「キンギンカ（金銀花）」と呼ばれるつる植物の、**スイカズラ**がみつかります。甘いほのかな香りがしますので、嗅いでみて下さい。

トンボの里やサブゾーンの野鳥の森では、**オカタツナミソウ**の青い花が、まるで波が立っているように咲く様子が見られます。



里山エリアでは**アザミ**があちこちで咲きます。この花は、たくさんの小さな花が集まっている集合花で、がくのように見えるのは、総苞と呼ばれる葉が変化したものです。アザミは1本の花茎に集合花が1つつきますが、小草池から田んぼエリアに向かう道では、多数の集合花が集まっている**キツネアザミ**が咲くことがあります。アザミに比べ、花期が短く、草刈りのタイミングによってはうまく咲かないことがあります。今年はどうでしょうか。

駐車場北の舗装道路の道や、田んぼエリアの上の道、万灯山エリアでよい香りがしたら、付近を探してみてください。つる植物の、**テイカカズラ**のかわいいプロペラ型の花がたくさん咲いています。名前の由来は、鎌倉時代の歌人・藤原定家が愛する式子内親王の死後、葛となって彼女の墓にからみついたという能の「定家」にちなんでいます。ただ、葉や茎を切ると出る白い液は毒性があるのでご注意下さい。

サブゾーン野鳥の森では、オカタツナミソウのほかに、地面では**ツルアリドオシ**の二つ並んだ小さな花がみつかります。秋にはちょっと変わった、2つの花で1つ赤い実が実ります。また、ササユリの花に出逢えるかもしれません。赤い雄しべが目印です。

万灯山の桜並木付近では、4月に白い花を咲かせていた**クサイチゴ**の赤い実がたくさん実っています。キイチゴ系の苺で食べられます。



こんな初夏のいきものたちを探しに、里を散策してみませんか。

4 月の行事紹介



「タケノコ掘りで竹林整備しよう」を4月7日(日)と14日(日)に開催しました。

トンボの里のきれいに管理された竹林には、によきによきとタケノコが顔を出し、探すことなくタケノコ掘りができました。

楽しく収穫作業と竹林管理を学ぶことができ、採ったタケノコは、旬のタケノコ料理となったことでしょう。

5 月の行事予定

12日(日)	野鳥のさえずりを聞いてみよう	20名	AM 9:30~11:30	高田 俊洋
--------	----------------	-----	---------------	-------

内容 ~ 春の里山で野鳥を観察します。

南から渡ってきた夏の小鳥のさえずりを、みなさんで聞いてみたいと思います。

19日(日)	棚田でお米を作ろうⅠ(田植え) ※注1【予備日:5/26】	60名	AM 9:30~11:30	当園職員
--------	----------------------------------	-----	---------------	------

内容 ~ 里山から流れ出る冷たい水を棚田に引き込み、稲の苗を手で植えます。

ぬかるんで歩きにくい棚田での作業は、苦勞の多い作業ですが

「きっと、おいしいお米ができることでしょう！」

「※注1」 棚田でお米を作ろうⅠ~Ⅲの講座は原則3回の講座のため、
2回以上受講した方に、特典として「お米」をプレゼントします。



6 月の行事予定

2日(日)	そのへんの草で、 冠、お雛様、笛など作りましょう	20名	AM 9:30~11:30	河江喜久代
-------	-----------------------------	-----	---------------	-------

内容 ~ 里山を散策しながら、シロツメクサ、ツバキの葉などを採集して、花冠、笛など作って遊びます。

昔懐かしい楽しい遊び。大人だけの参加 大歓迎です！

15日(土)	草木染にチャレンジ!!	20名	AM 9:30~11:30	磯貝はるみ
--------	-------------	-----	---------------	-------

内容 ~ 日本で昔から行われてきた草木染。身近な草木を用いて、伝統文化に触れるとともに、植物の持つ色を楽しんでみましょう。

- ◇ **参加受付**は、各講座3週間前の午前8時30分から先着順に受け付け、来園、または電話受付し、お申込みは本人、もしくはその同居家族までとします。なお、申込者が**4名以下**の場合は開講しません。
- ◇ **参加申込者**は傷害保険に加入するため、小学生以上の方とします。なお、小さいお子さまをお連れいただいても構いませんが「見学扱い」とし、傷害保険の加入はありません。
- ◇ **当日の天候**により、講座の中止・延期、または講座の内容を変更する場合があります。
- ◇ 原則、**参加費は無料**ですが、講座により**材料費は実費**を申し受けます。[講師に直接払う]
- ◇ **各講座の詳細な内容**については、直接ネイチャーセンターにご確認ください。

西尾いきものふれあいの里ネイチャーセンター

◆ところ 〒445-0031 愛知県西尾市家武町小草3番地 Tel・Fax 0563-52-0266

◆休日 毎週月曜日・祝日の翌日・年末年始[12/28~1/4] ◆発行 西尾市環境部 環境保全課